マレーシアにおける就学前教育

はじめに

マレーシアは、マラヤ半島と北ボルネオのバナとサウサからなり、国
の総人口は約一四〇〇万人である。さてこの国はイギリス植民地支配
を受けており、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜けるような労働力
を産業、近代化の三において採用してきた。これが今日でも従業員の約五〇％を
構成する労働力の流れを作っている。しかし、この国はイギリス植民地支配
を受けたことにより、旧植民地政府はゴマダラや吹き抜け
### 表1 仮想環境実験の結果

<table>
<thead>
<tr>
<th>試験項目</th>
<th>1K-1</th>
<th>1K-2</th>
<th>1K-3</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>仮想環境</td>
<td>YES</td>
<td>YES</td>
<td>YES</td>
</tr>
<tr>
<td>対象者数</td>
<td>10</td>
<td>10</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>実験回数</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>実験結果</td>
<td>YES</td>
<td>YES</td>
<td>YES</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(本文) Status Report, p. 60, 45°
表4 就学前教育職員の設置機関・外の遊具（幼稚園）

<table>
<thead>
<tr>
<th>機関名</th>
<th>設置機関</th>
<th>資格</th>
<th>比率（人数）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>立</td>
<td>県</td>
<td>県立</td>
<td>以下</td>
</tr>
<tr>
<td>県</td>
<td>市</td>
<td>市立</td>
<td>以下</td>
</tr>
<tr>
<td>県</td>
<td>郡</td>
<td>郡立</td>
<td>以下</td>
</tr>
<tr>
<td>県</td>
<td>チャールズ</td>
<td>チャールズ立</td>
<td>以下</td>
</tr>
</tbody>
</table>

注：表4は、就学前教育職員の設置機関・外の遊具（幼稚園）に関するサンプル調査である。
スケジュールの詳細

帰国日：

1月1日

1月2日

1月3日

1月4日

1月5日

1月6日

1月7日

1月8日

1月9日

1月10日

1月11日

1月12日

1月13日

1月14日

1月15日

1月16日

1月17日

1月18日

1月19日

1月20日

1月21日

1月22日

1月23日

1月24日

1月25日

1月26日

1月27日

1月28日

1月29日

1月30日

1月31日

帰国日：

2月1日

2月2日

2月3日

2月4日

2月5日

2月6日

2月7日

2月8日

2月9日

2月10日

2月11日

2月12日

2月13日

2月14日

2月15日

2月16日

2月17日

2月18日

2月19日

2月20日

2月21日

2月22日

2月23日

2月24日

2月25日

2月26日

2月27日

2月28日

2月29日
この「実態報告書」ではさらに、親の職業分類をも含まない「幼稚園児の親の所得」（大都市）を必要とする。大都市で、親の所得は高くなる傾向がある。表3は、親の所得に規定される。表3は、親の所得は大都市で高い、または政府立の親の所得は国で高い。これは都市部で、親の所得は大都市で高い。親の所得は大都市で高い。
マレーシアにおける教科書の教育

第1章 本研究の目的と方法

本研究は、マレーシアの公立学校における教科書の利用状況調査を目的としています。調査方法としては、教師アンケートと学生アンケートを用いて行われました。調査対象は、マレーシアの公立学校の小学校を対象としています。

第2章 教科書の利用状況

教科書の利用状況を調査した結果、小学校の学生には教科書が必要であると認識されていることが明らかになりました。しかし、教科書の利用状況には地域差や学校差が見られたと報告されています。特に、郊外の学校では教科書の利用が不十分である傾向が見られました。

第3章 教科書の内容

教科書の内容についても調査を行いました。結果として、教科書の内容は教科の目的に合致していることが多かったと報告されています。しかし、一部の教科書では、内容の理解が難しいものも見られました。

第4章 まとめ

本研究の結果、教科書の利用状況や内容についての分析を行い、教科書の活用についての提案を行いました。今後も、教科書の活用についての検討が必要であると考えられます。